

# 板橋区子ども・子育て支援に関するニーズ調査 結果概要

## I 調査概要

### 1. 調査実施の目的

保護者の生活状況や子育て支援サービスの利用状況および要望等を把握し、「いたばし子ども未来応援宣言2025」各編の改定に反映させることを目的として実施した。

### 2. 調査の種類

調査名	調査対象
1. 就学前児童保護者アンケート	現在就学していない子どもがいる保護者
2. 小学生児童保護者アンケート	現在小学校に通学する子どもがいる保護者

### 3. 調査方法と回収状況

調査地域：板橋区全域

調査対象：① 就学前児童保護者アンケート 現在就学していない子どもがいる保護者

調査対象：② 小学生児童保護者アンケート 現在小学校に通学する子どもがいる保護者

抽出方法：① 就学前児童保護者アンケート

平成24年4月2日～平成30年4月1日生まれの子どもを住民基本台帳から無作為抽出

抽出方法：② 小学生児童保護者アンケート

平成18年4月2日～平成24年4月1日生まれの子どもを住民基本台帳から無作為抽出

調査方法：保護者宛に郵送し、保護者に対しWebでの回答もしくは郵送返信を依頼

調査期間：平成30年5月1日（火）～5月31日（木）

<回収状況>

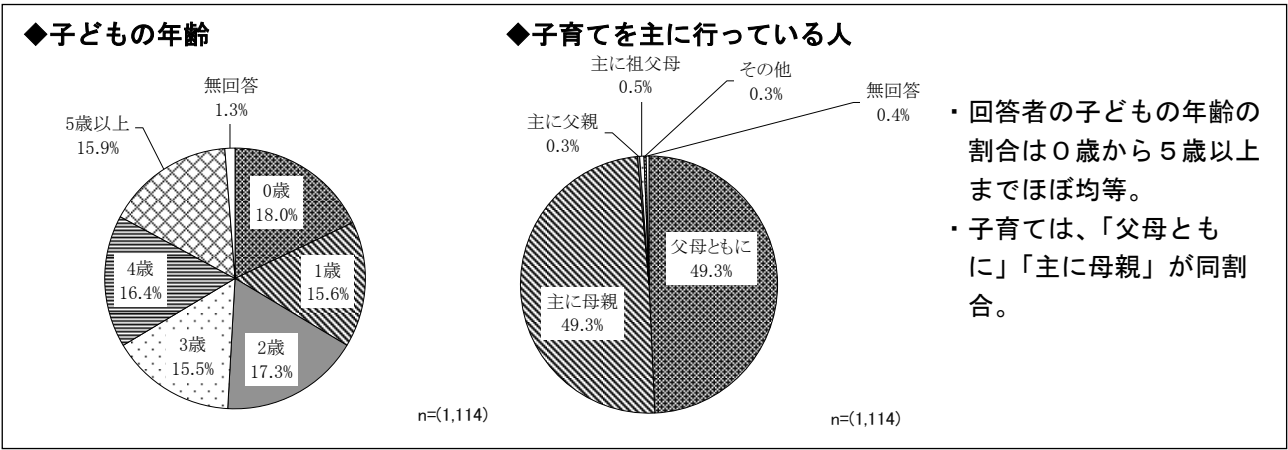
調査名	発送数	回収数		総回収数	回収率
		郵送	Web		
1. 就学前児童保護者アンケート	2,000件	738件	376件	1,114件	55.7%
2. 小学生児童保護者アンケート	1,000件	390件	170件	560件	56.0%
合計	3,000件	1,128件	546件	1,674件	55.8%

### 4. 調査項目

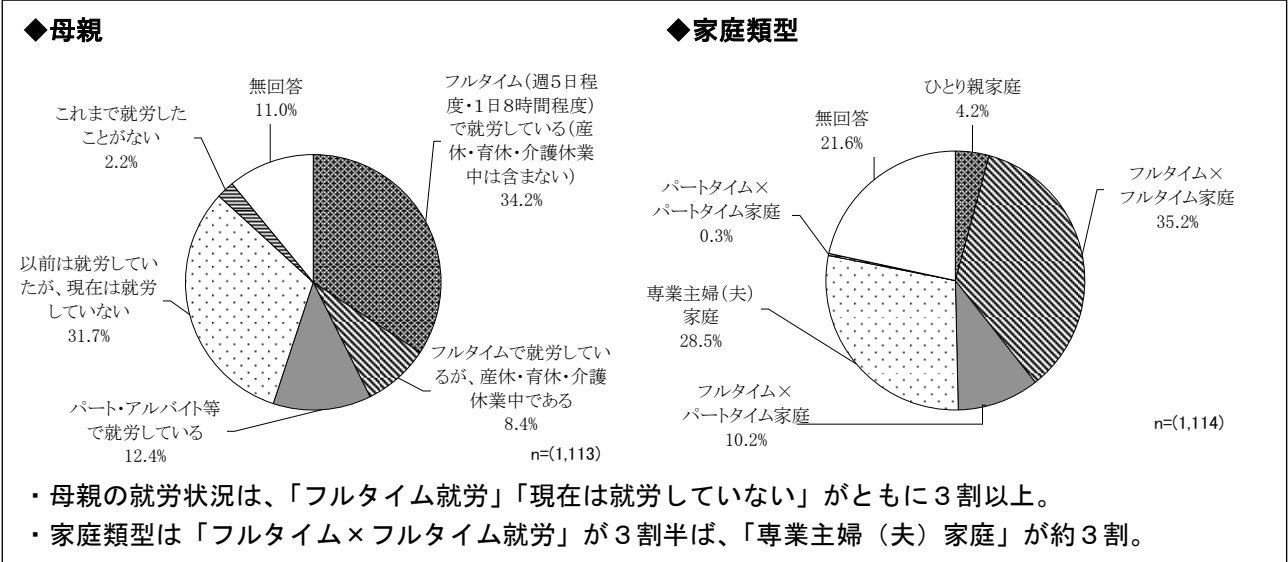
1. 就学前児童保護者アンケート	2. 小学生児童保護者アンケート
1. 子どもと家族の状況	1. 子どもと家族の状況
2. 保護者の就労状況	2. 保護者の就労状況
3. 産後ケア事業の認知度・利用度	3. 子どもの生活習慣
4. 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況	4. 子どもの進学希望
5. 地域の子育て支援事業の利用状況	5. 子どもの休日や放課後の過ごし方
6. 土曜・休日の教育・保育事業の利用希望	6. 子育て支援サービスの認知度・利用度・満足度
7. 病気の際の対応	7. 子育て全般について
8. 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かりの利用状況	8. 調査票の回答者について
9. 小学校就学後の休日や放課後の過ごし方	
10. 子育てと職場の両立支援制度	
11. 子育て全般について	
12. 調査票の回答者について	

## II 調査結果（就学前児童保護者アンケート）

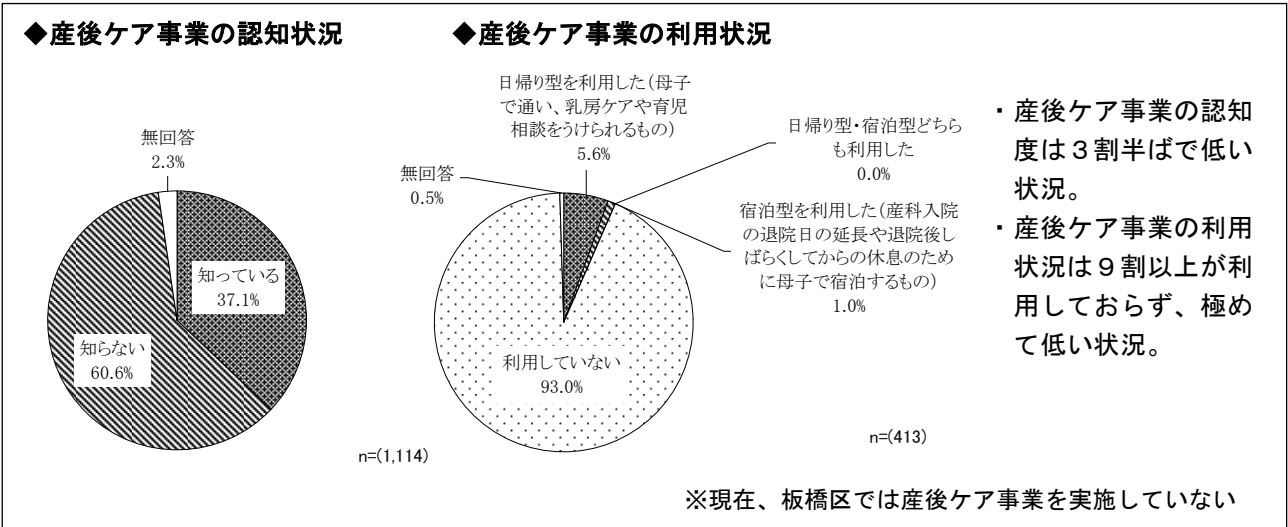
### 1. 子どもと家族の状況〔本編P9～P12〕



### 2. 保護者の就労状況〔本編P13～P25〕

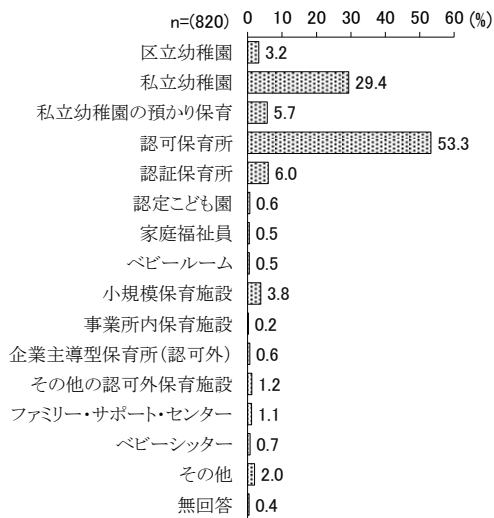


### 3. 産後ケア事業の認知度・利用度〔本編P26～P27〕

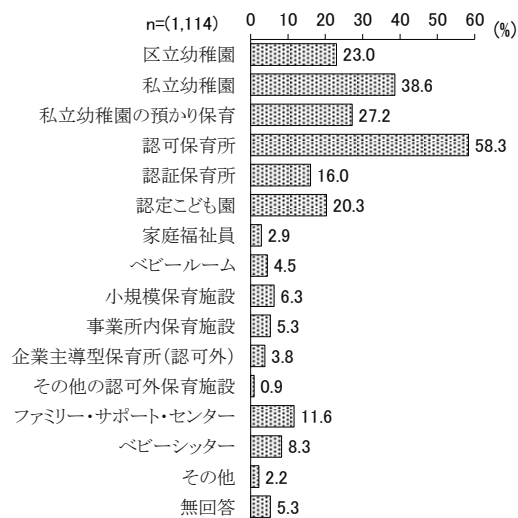


#### 4. 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況 [本編P27~P40]

##### ◆利用している教育・保育事業



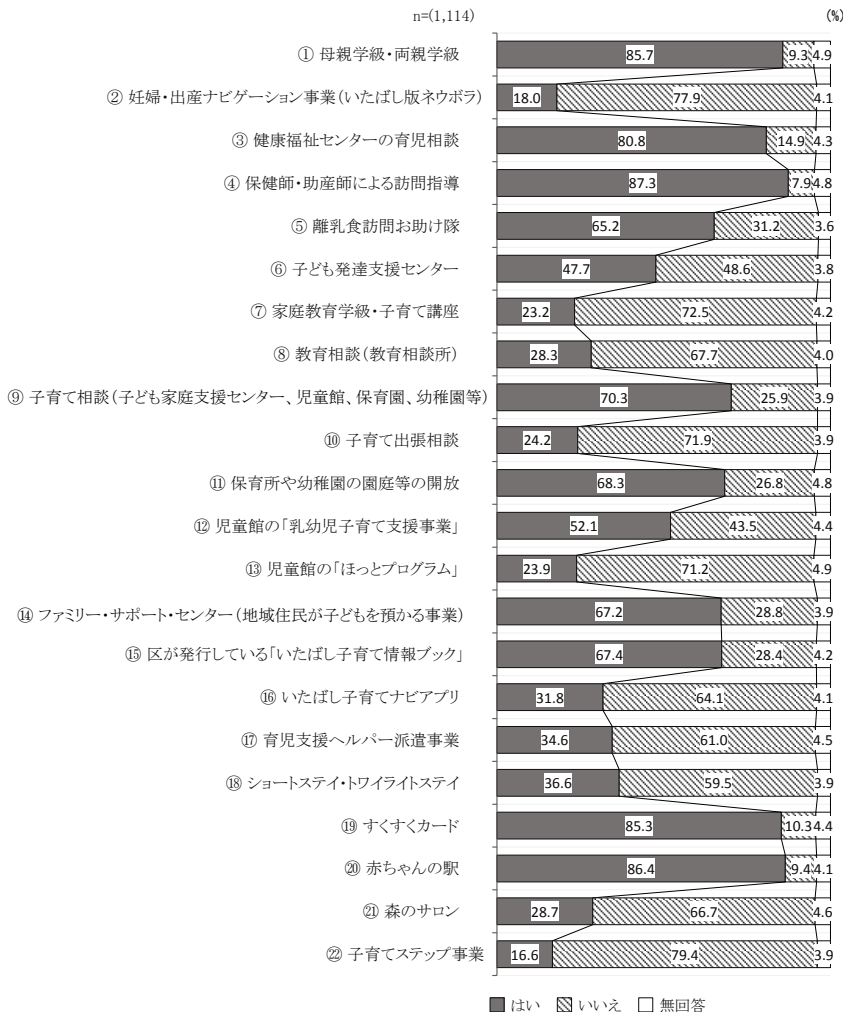
##### ◆利用したいと考える教育・保育事業



- ・利用している教育・保育事業は「認可保育園」「私立幼稚園」が中心。
- ・利用意向は「認可保育園」のほか、「私立幼稚園」「私立幼稚園の預かり保育」「区立幼稚園」「認定こども園」の意向が高い。

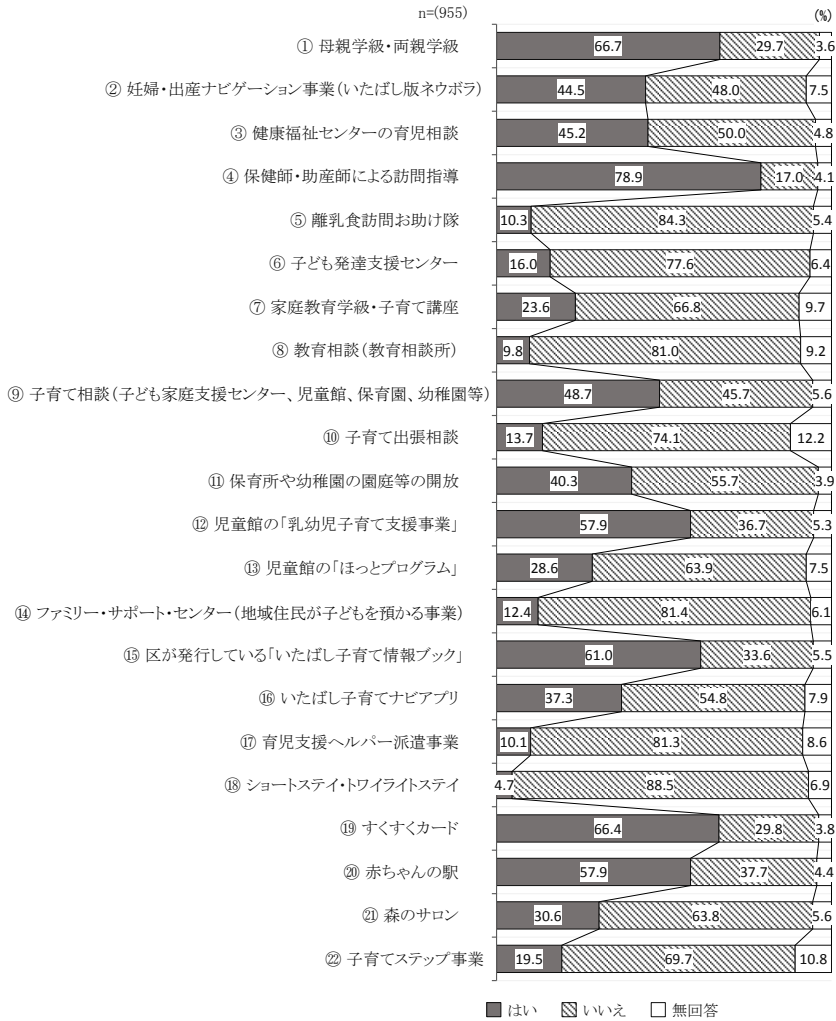
#### 5. 地域の子育て支援事業の利用状況 [本編P41~P46]

##### ◆子育て支援サービスの認知度



- ・認知度が高いサービスは、「④保健師・助産師による訪問指導」「⑳赤ちゃんの駅」「①母親学級・両親学級」「⑲すくすくカード」「③健康福祉センターの育児相談」が8割以上。
- ・認知度が低いサービスは、「㉒子育てステップ事業」「㉑妊婦・出産ナビゲーション事業(いたばし版ネウボラ)」が2割以下。

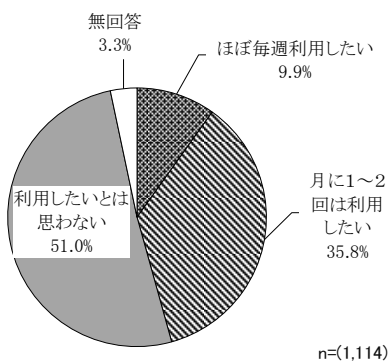
### ◆子育て支援サービスの利用度



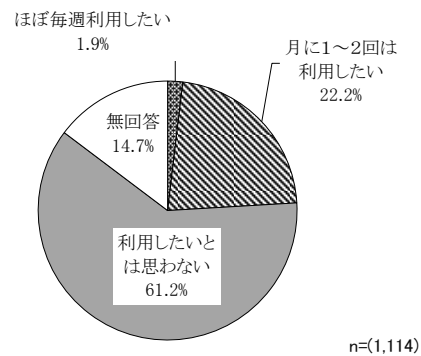
- ・利用度が高いサービスは、「④保健師・助産師による訪問指導」で約8割、「①母親学級・両親学級」「⑲すくすくカード」「⑮区が発行しているいたばし子育て情報ブック」が6割以上。
- ・利用度が低いサービスは、「⑧教育相談(教育相談所)」「⑩ショートステイトワイライトステイ」で1割以下。
- ・「⑤離乳食訪問お助け隊」「⑭ファミリー・サポート・センター」は認知度が6割以上あるが、利用度は約1割にとどまっている。

### 6. 土曜・休日の教育・保育事業の利用希望 [本編P47~P52]

#### ◆土曜日の教育・保育事業の利用希望



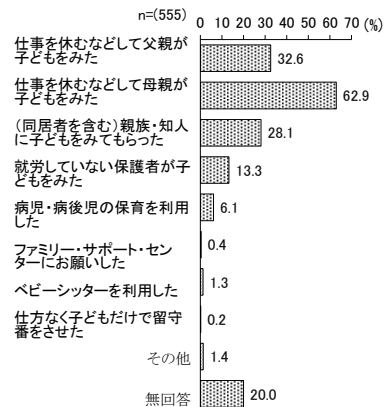
#### ◆日曜日・祝日の教育・保育事業の利用希望



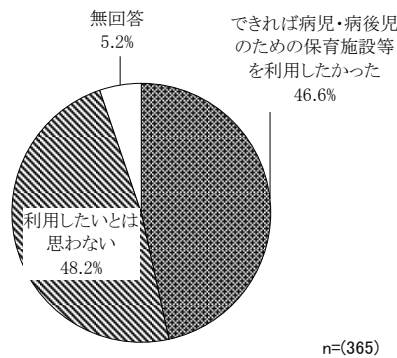
- ・土曜・休日の教育・保育事業の利用希望は、土曜日は4割半ば、日曜日・祝日は2割以上の意向。

## 7. 病気の際の対応【本編P52～P59】

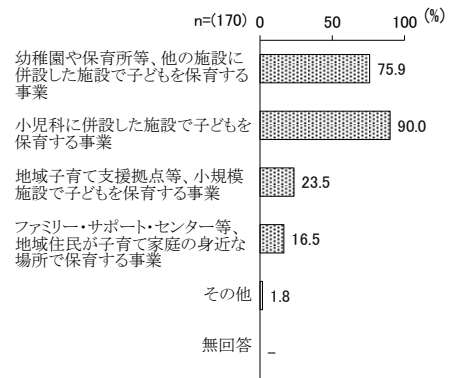
### ◆通常の教育・保育事業が利用できなかった場合の対処



### ◆保育施設等の利用希望



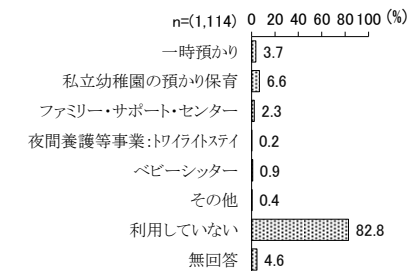
### ◆望ましい事業形態



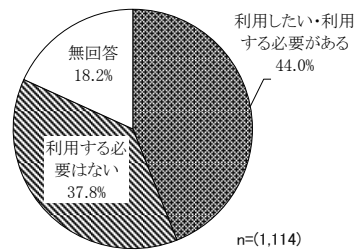
- ・通常の教育・保育事業が利用できなかった場合の対処方法は「母親が休んでみた」が6割以上。
- ・定期的な教育・保育事業を利用している方で、病気などで通常事業を利用できなかった方のうち、病児・病後児の保育施設の利用意向は4割半ば。
- ・保育施設の形態は、「小児科に併設」「幼稚園や保育所等に併設」の形態が望まれている。

## 8. 不特定の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かりの利用状況【本編P60～P64】

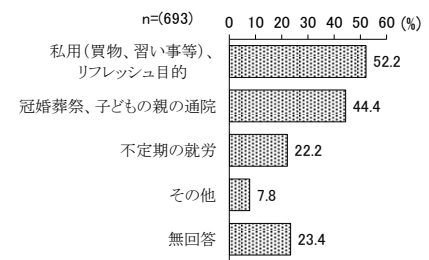
### ◆不特定の教育・保育事業の利用状況



### ◆利用希望



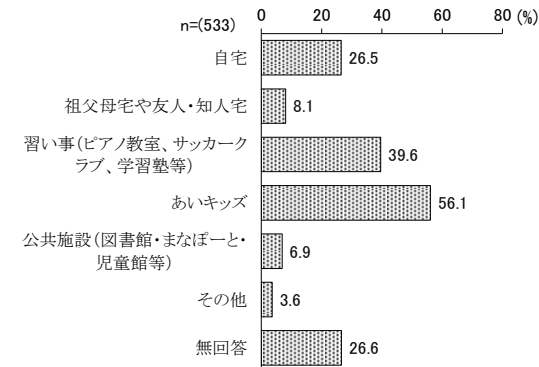
### ◆利用目的



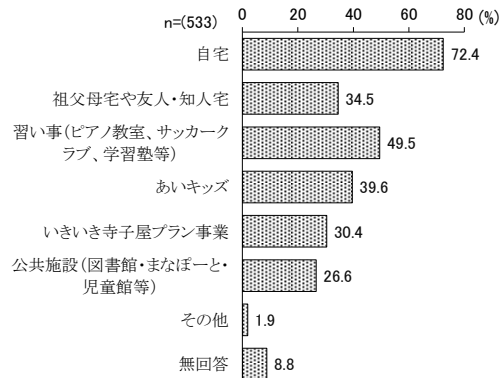
- ・私用、親の通院、就労等の目的で、不特定の教育・保育事業は「利用していない」が8割以上。
- ・不特定の教育・保育事業の利用希望は4割半ば。
- ・利用の目的としては、「私用、リフレッシュ目的」「冠婚葬祭、通院」など。

## 9. 小学校就学後の休日や放課後の過ごし方【本編P65～P67】

### ◆放課後の過ごさせたい場所



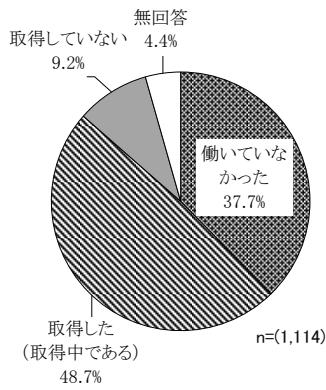
### ◆土曜日に過ごさせたい場所



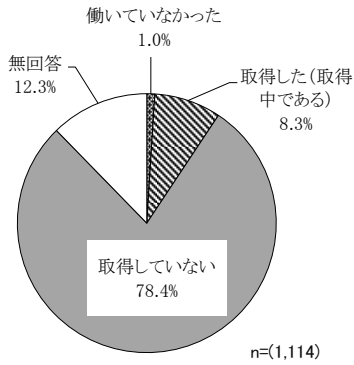
- ・小学校就学後の放課後の過ごし方の意向は、「あいキッズ」が5割半ば、「習い事」が約4割。
- ・土曜日の過ごし方の意向は、「自宅」が7割以上、「習い事」が約5割。

## 10. 子育てと職場の両立支援制度 [本編P68~P79]

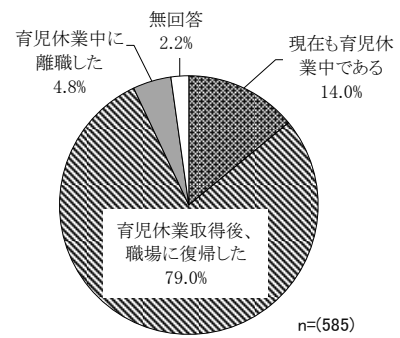
### ◆母親の育児休業取得状況



### ◆父親の育児休業取得状況



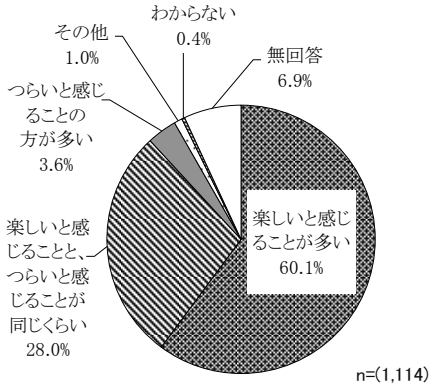
### ◆育児休業取得後の職場復帰



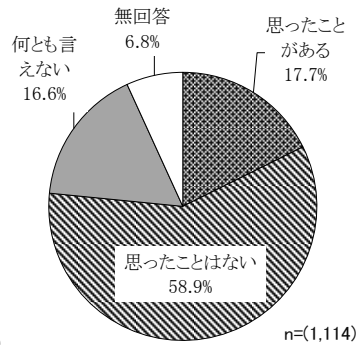
- ・ 育児休業の取得状況は、母親が約5割、父親が約1割。
- ・ 育児休業を取得した方のうち、約8割が職場復帰している。

## 11. 子育て全般について [本編P80~P84]

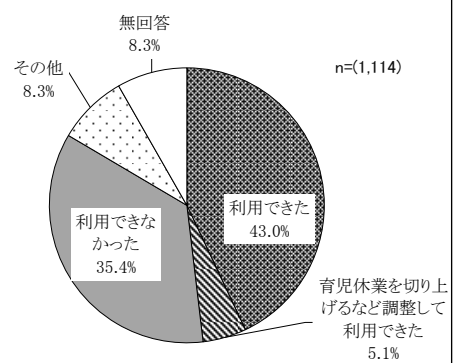
### ◆子育てについて感じる事



### ◆虐待に関する意識



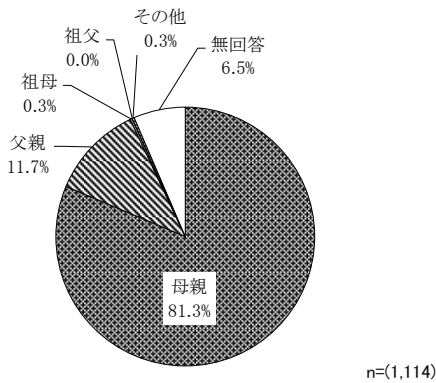
### ◆希望どおりの子育て支援サービスの利用



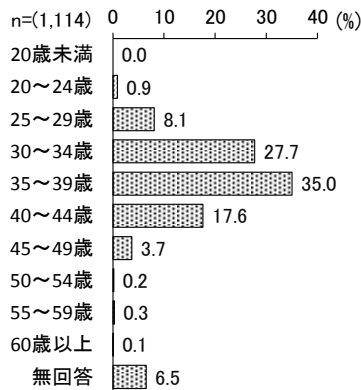
- ・ 子育てについて、「楽しい」と感じる方が6割以上。
- ・ 子どもへの虐待の意識としては、1割半ばの方が思ったことがあると感じている。
- ・ 子育て支援サービスについては、4割以上の方が希望どおりのサービスを利用できている。

## 12. 調査票の回答者について [本編P85~P89]

### ◆回答者の続柄



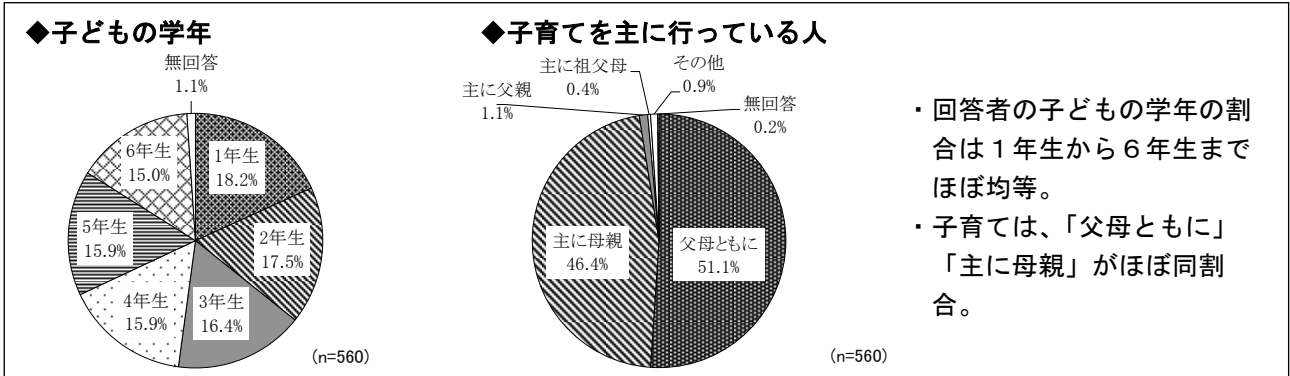
### ◆回答者の年代



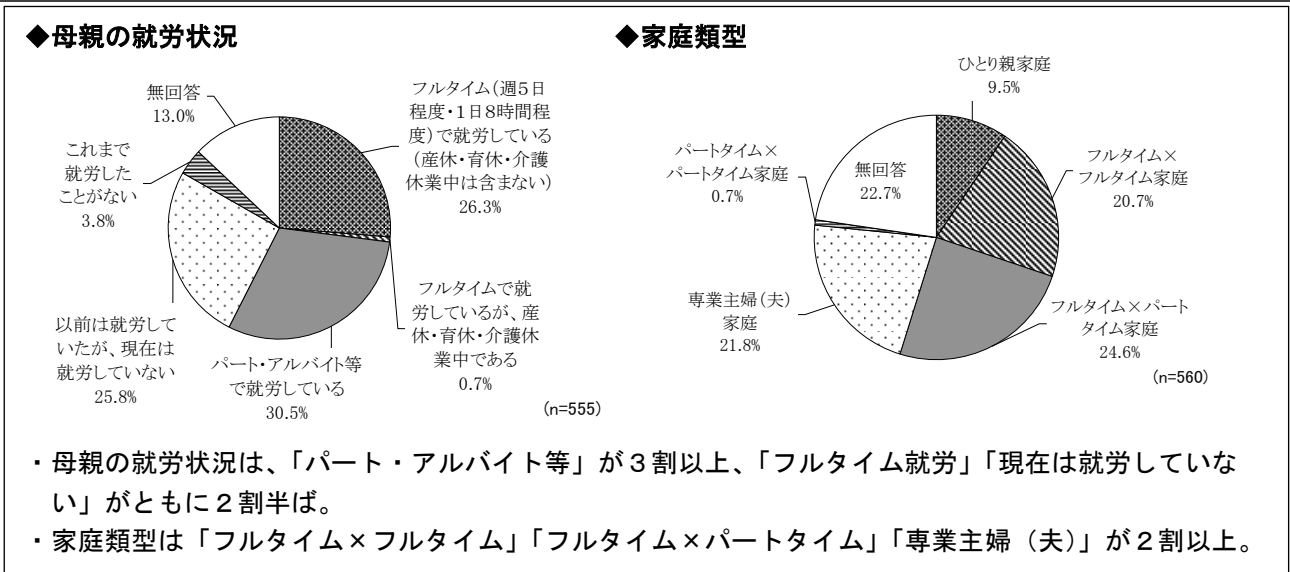
- ・ 回答者の続柄は母親が8割以上。父親は1割以上。
- ・ 回答者の年代は、30歳代が6割以上。

### Ⅲ 調査結果（小学生児童保護者アンケート）

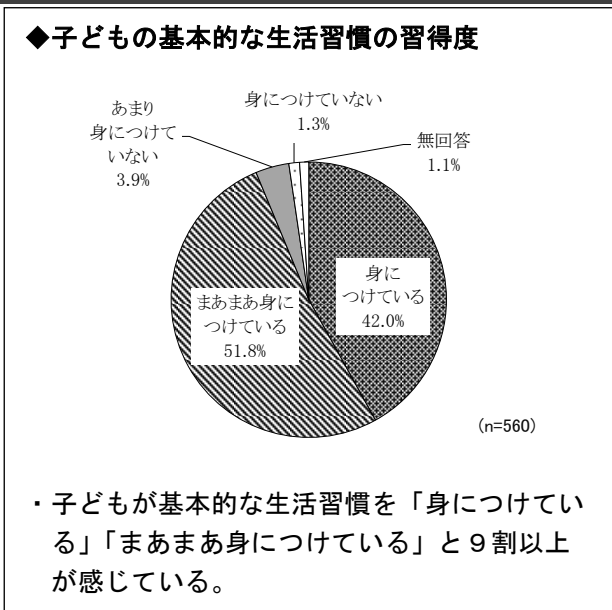
#### 1. 子どもと家族の状況〔本編P93～P96〕



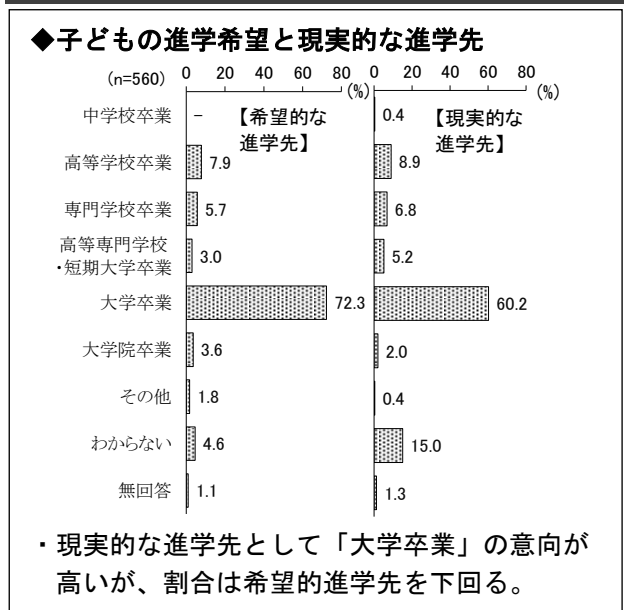
#### 2. 保護者の就労状況〔本編P97～P106〕



#### 3. 子どもの生活習慣〔本編P107～P110〕

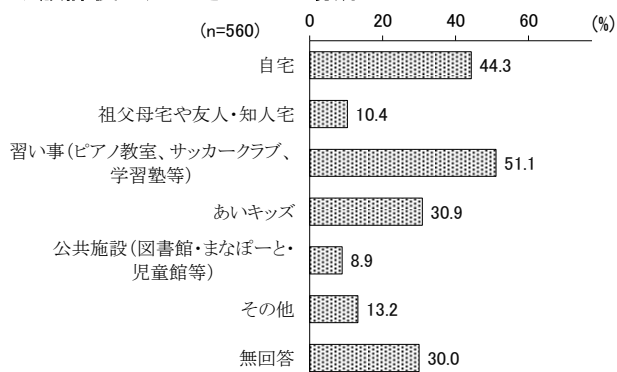


#### 4. 子どもの進学希望〔本編P111～P112〕

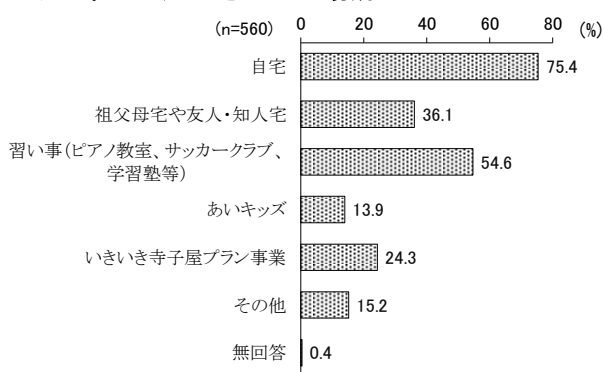


## 5. 子どもの休日や放課後の過ごし方〔本編P113～P115〕

### ◆放課後の過ごさせたい場所



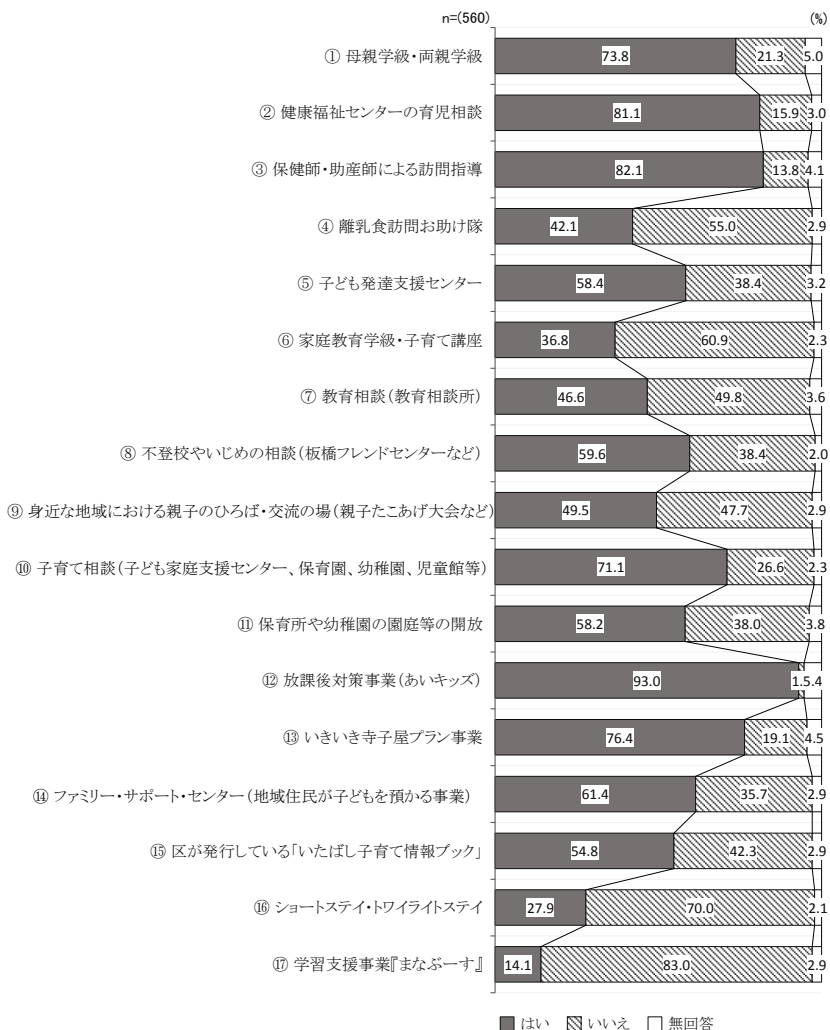
### ◆土曜日に過ごさせたい場所



- ・放課後の過ごし方の意向は、「習い事」が5割以上、「自宅」が4割半ば、「あいキッズ」が3割以上。
- ・土曜日の過ごし方の意向は、「自宅」が7割半ば、「習い事」が5割半ば。

## 6. 子育て支援サービスの認知度・利用度・満足度〔本編P116～P120〕

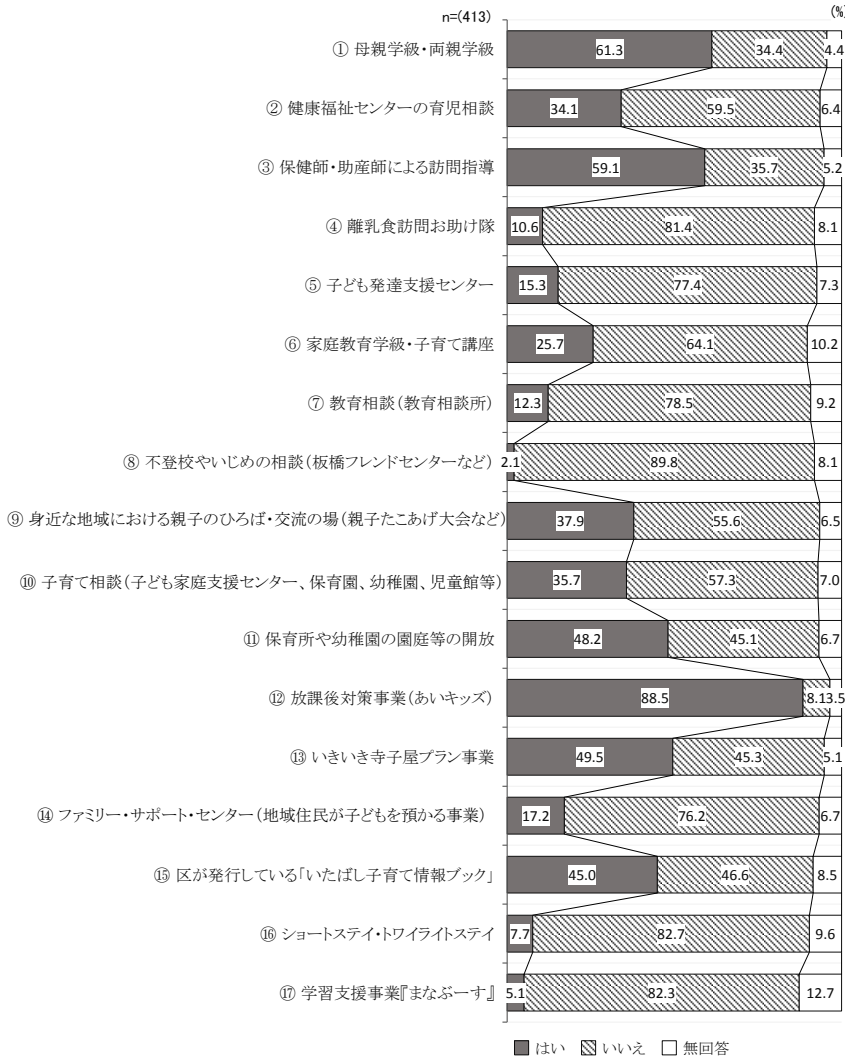
### ◆子育て支援サービスの認知度



- ・認知度が高いサービスは、「⑫放課後対策事業(あいキッズ)」が9割以上、「③保健師・助産師による訪問指導」「②健康福祉センターの育児相談」が8割以上、「⑬いきいき寺子屋プラン事業」が7割半ば、「①母親学級・両親学級」「⑩子育て相談」が7割以上。
- ・認知度が低いサービスは、「⑰学習支援事業『まなぶーす』」が1割半ば、「⑯ショートステイ・トワイライトステイ」が2割半ば。



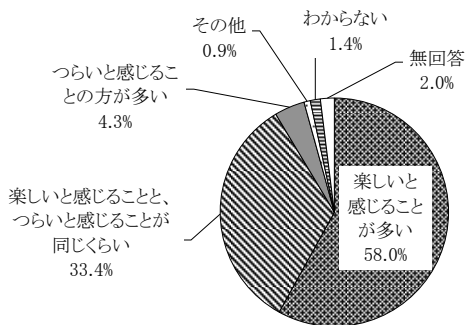
### ◆子育て支援サービスの利用度



- ・利用度が高いサービスは、「⑫放課後対策事業(あいキッズ)」が約9割、「①母親学級・両親学級」「③保健師・助産師による訪問指導」が約6割。
- ・利用度が低いサービスは、「⑧不登校やいじめの相談」「⑰学習支援事業『まなぶーす』」「⑯ショートステイ・トワイライトステイ」が1割未満、「④離乳食訪問お助け隊」「⑦教育相談(教育相談所)」が約1割、「⑤子ども発達支援センター」「⑭ファミリー・サポート・センター」が1割半ば。
- ・「⑫放課後対策事業(あいキッズ)」は認知度、利用度ともに高く、区民に広く利用されている。

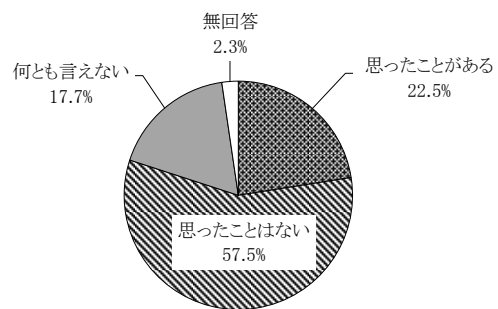
## 7. 子育て全般について [本編P121~P125]

### ◆子育てについて感じること



(n=560)

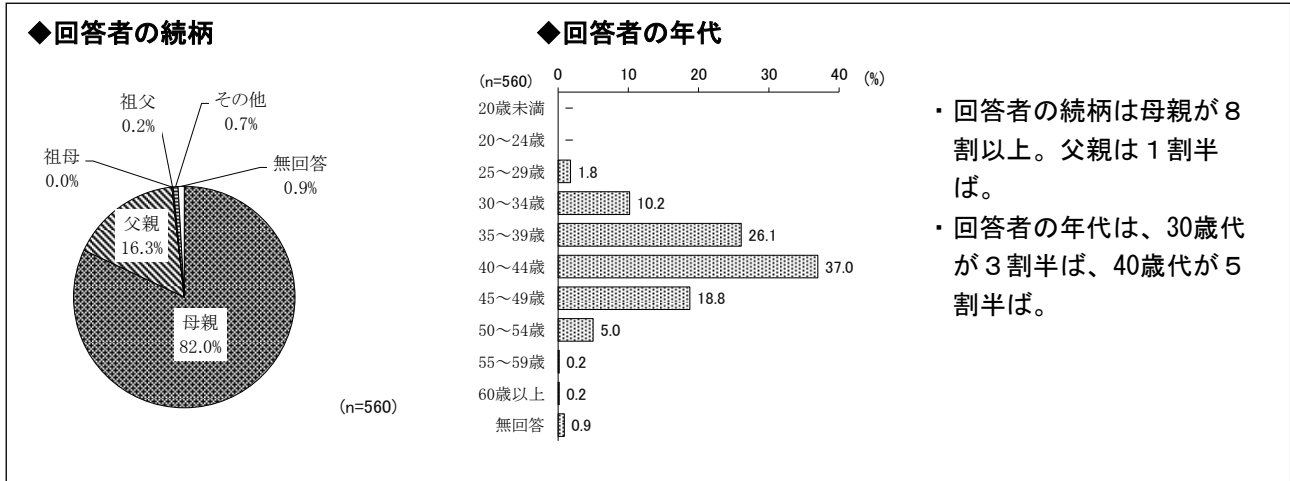
### ◆子どもへの虐待に関する意識



(n=560)

- ・子育てについては、楽しいと感じている方が約6割。
- ・子どもへの虐待については、2割以上の方が思ったことがあると感じている。

## 8. 調査票の回答者について【本編P126～P131】



## IV まとめ

### 1. 就学前児童保護者アンケート

母親の就労状況は、フルタイム就労【34.2% 前回比7.9ポイント増】と現在未就労【31.7% 前回比11.5ポイント減】の方が3割以上とほぼ同割合を示しており、父親の就労状況を踏まえた家庭類型で見ると、フルタイム×フルタイム家庭【35.2% 前回比2.5ポイント増】が最も多く、次いで専業主婦（夫）家庭【28.5% 前回比8.7ポイント減】となっている。

定期的な教育保育事業の利用について、現状では主に認可保育所、私立幼稚園が利用されているが、利用意向としては、このほかに私立幼稚園の預かり保育、区立幼稚園、認定こども園などの意向が比較的高くなっている。

子育て支援サービスについては、母親学級・両親学級や保健師・助産師による訪問指導など、認知度・利用度ともに高い項目がみられる一方、ファミリー・サポート・センターなど認知度が比較的高い【67.2%】にもかかわらず、利用度が低い【12.4%】項目がみられる。

土曜日の教育・保育事業、病児・病後児の保育施設等の利用について、ともに4割以上【45.7% 前回比6.6ポイント増】の利用意向がみられ、休日や緊急時の預け先の確保が求められている。

育児休業の取得状況は、母親については約5割【48.7% 前回比11.7ポイント増】であり、父親については約1割【8.3% 前回比3.4ポイント増】とその取得率は依然として低い状況にある。

子どもへの虐待の意識について、虐待したのではないかと感じている方が少数ではあるが1割半ば【17.7% 前回比1.0ポイント増】を占めていることから、虐待防止への継続的な取り組みが今後も重要と考えられる。

### 2. 小学生児童保護者アンケート

母親の就労状況は、フルタイム就労【26.3% 前回比2.4ポイント増】とパート・アルバイト就労【30.5% 前回比11.2%減】、現在未就労【25.8% 前回比1.0ポイント増】の方が3割前後とほぼ同割合を示しており、家庭類型でも、フルタイム×フルタイム家庭【20.7% 前回比4.9ポイント増】、フルタイム×パートタイム家庭【24.6% 前回比8.0ポイント減】、専業主婦（夫）家庭【21.8% 前回比1.0ポイント減】ともに2割以上となっている。

子どもの進学希望については、現実的な進学先として「大学卒業」の意向が最も高いが、割合は希望的進学先を下回り、現実と希望において若干のギャップがみられる。【希望 72.3% 現実 60.2%】

子どもの休日や放課後の過ごし方について、放課後では習い事、土曜日では自宅が最も高くなっており、自宅以外では習い事やあいキッズ、祖父母宅や友人・知人宅などの意向が高くなっている。

子育て支援サービスについては、放課後対策（あいキッズ）の認知度、利用度がともに9割前後と突出しており、区民に広く周知・活用されている状況がうかがえる。

子どもへの虐待の意識について、虐待したのではないかと感じている方が2割以上【22.5% 前回比3.4ポイント増】を占めており、これは就学前児童保護者アンケートの同設問より約5ポイント高くなっていることから、小学生児童保護者に対しても虐待防止への取り組みが重要と考えられる。